学校番号	119

令和３年度　芸術科［美術］

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高校生の美術２　（日本文教出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

美術の授業では、作品の制作と鑑賞を行います。その時、もちろん自分の作品を完成させることや、鑑賞した作品について感じる・考えることが目標になります。ただ、その活動の中から、生活の他の場面でも活きてくる新しい視点を見つけられればより良いと思っています。

新しい視点を見つけるというのは、例えば、何かを観察して描写する中で、普段見えなかったその物の特徴に気付いたり、ある作品がどういう意図でデザインされたか考えることで、身の回りの様々な製品についてもどうしてその色や形なのか考えるようになったり、といったことです。

そのように、授業から自分の中に新しいものを取り入れるためには、本気で活動に取り組むことが必要です。本気になるために一番手っ取り早いのはその活動を楽しむことです。なので、もし興味が持てなかったり苦手だったりすることであっても、「やってみたら案外楽しいかもしれない」と思って、楽しみを自分で見つけ出すつもりで授業に臨む方が自分にとって得だと思います。

2　学習の到達目標

美術の幅広い活動を通して美術文化に対する理解を深め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。そして、表現活動を通じて自己の主体性と独自性を確認することで自己を肯定し、様々な対象や経験から豊かな美的体験を得られる感性を育むことで自らを取り巻く他者と世界を肯定して、それらを合わせて人生を肯定的に捉えて生きていくための力とする。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	美術の創造活動の喜びを追求し、美術文化に関心を向け、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとする。	創造的な感性のもとに、想像力を働かせて主題を形成し、表現の構想を練っている。	創造的な表現をするために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫しつつ完成度を追求して表している。	美術文化への理解を深め、美術とそれにつながる自然や社会、生活について幅広く考え、それらの美しさや面白さを創造的に受容している。
評価方法	授業中の様子 ワークシート 作品	作品	作品	ワークシート 授業中の様子

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	クロッキー～観察と描写の練習～	【絵画・彫刻】 人物モデルや自分の手など様々なモチーフを短時間でクロッキーし、描写の練習をする。 ・各授業時間で短時間ずつ、継続して一年間行う。 ・線の引き方やあたりの取り方・細部の見方など、個別の技術を分けて指導し、上達を図る。	○		○		a:指導した技法や観点を積極的に取り入れ、モチーフを写し取るために工夫している。 c:よくモチーフを観察し、その存在感を描き出せている。	作品 活動の様子
	コラージュ作品からペン画を制作する	【絵画・彫刻】 ①画像のコラージュ 雑誌や新聞などから写真を切り抜いて紙に貼り合わせ、意外性をもったイメージの組み合わせで画面構成する。 ・素材の雑誌などは生徒が持参する。自分で撮影した写真を用いても良い。 ・複数作品を作る。 ②ペン画 コラージュ作品のイメージを元にペン画を描く。 ・①で自分が作ったコラージュ作品から1点を選び、その作品の図像を別紙にトレーシングペーパーで転写し、それを元にボールペンで描画する。 ・元の図像からアレンジを加えて描いてもよい。別々の素材を寄せ集めたコラージュの図像から、自分の構想の下に統一されたひとつの世界として画面を作ることを意識する。	○	○ ○		○ ○	a:積極的に素材を集めて持参し、自ら表現の幅を広げようとしている。 b:画面全体でどのような印象を与えたいのかという明確な意図の下に構成している。 c:様々なタッチを学び、自分の表現したいイメージに合わせて描画方法を駆使している。 d:素材となる写真や自分が作ったコラージュを客観的かつ創造的に見てその画像特有のの要素を見出し、表現に活かすことを考えている。	作品

2学期	作品鑑賞シート	【鑑賞】 教科書に載っている作品の中から、好きな作品と、「なぜこれが教科書に載るほどすごいのか」というようなツッコミを入れたい作品を合わせて3つ以上選び、それぞれ、なぜ好きか、どこにツッコみたいのか、という感想を書く。 ・感想を発表し、教員がコメントを返すという形で理解を共有・深化させ、美術への興味を促進する。	○			○	a:主体的に作品について考えたり調べたりして記述している。 d:創造的で開かれた感性をもって作品を鑑賞できている。 また、一つの作品に対しても多様な見方や色々な背景が存在することを理解できている。	ワークシート
	油絵の静物画	【絵画・彫刻】 静物のモチーフを3点以上机上に配置し、油絵の具で描写する。		○	○		b:どのように見せたいかという意図をもってモチーフを配置し、画面を構成している。 c:モチーフの色・形などの特徴をよく観察した上で、モチーフ相互の関係からなる空間の表現ができている。	作品
	石の模刻 ～そっくりに作ろう～	【絵画・彫刻】 1人ひとつモチーフの石を選び、その石を色・形ともそっくりに再現した立体作品を作る。 ・形は紙粘土で作り、乾かしてからアクリルガッシュで彩色する。			○	○	c:石の全体的な形と大きさおよび細部の凹凸、あるいは表面の色調と模様など、そのモチーフ特有の特徴を観察して捉え、的確に表現している。 d:無二の自然物であるモチーフの石を愛着をもって観察・鑑賞し、その特徴や美しさを味わっている。	作品
3学期	ステンシル版画	【絵画・彫刻】 孔版画。型紙を切り抜いて作った版を用いて黒い紙にアクリルガッシュで図像を写し出す。 ・テーマ・モチーフ自由。完成イメージに合わせて資料に当たり、モチーフを組み合わせて表現する。	○	○	○		a:作りたいイメージのために積極的に資料調べ・構想・制作作業をしている。 b:豊かな想像力をもって作品を発想し、画面の構成を十分練っている。 c:孔版の仕組みを理解してイメージを画面上に表出できている。 また、形と色を工夫して表現している。	作品

※　表中の観点について　a:美術への関心・意欲・態度　　b:発想や構想の能力
　　c:創造的な技能　　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。